

学習意欲を高める教具の開発

ー教科書をリライトしたワークシートー

県立王寺工業高等学校 教諭 中本ふさよ

Nakamoto Fusayo

要 旨

高等学校1年生において、教科書を易しくリライトしたワークシートを使用して概要を理解させた後に別のワークシートを用いて教科書本文を理解させた。また最後に学んだ表現を用いてライティング活動を行った。その結果、4技能すべてにおいて事前アンケートで苦手と回答していた層の意識が改善された。

キーワード： リライト、ワークシート、4技能、教材・教具開発

1 はじめに

従来から外国人児童の日本語指導で使用することを目的とした国語科の教科書をスペイン語や中国語にリライトしたものは存在するが、ここでは高等学校外国語科で教科書をリライトしたものについて論じる。

平成28年12月の中央教育審議会答申(中教審第197号)(以降中教審答申)では、外国語教育の課題の一つとして、「学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じるといった状況や、学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている」と述べている。そこで本研究では、高等学校の学習にスムーズに入っていけるように、高校1年生に対して教科書をリライトしたワークシートを作成して、内容理解の助けとし、それを教科書本文と比較して教科書の内容や表現を学び、ライティングで生かしていく取組を行った。具体的には、コミュニケーション英語Ⅰの授業の中で6月から11月までワークシートを用いて本校の生徒に対して授業を行い(表1)、アンケート調査や研究授業からのフィードバックをもとに、より効果的なワークシートの開発を目指した。

表1 ワークシートを使用した授業

	ワークシート 使用授業回数	総授業回数	扱った単元
6月	6	16	Lesson 3 part 1
9月	6	13	Lesson 3 part 2
10月	8	13	Lesson 3 part 3 / Lesson 4 part 1
11月	6	14	Lesson 4 part 2
合計	26	56	

2 リライト教材の開発に当たって

(1) 先行研究

本研究を進めるに当たりリライト教材についての先行研究を調査し、ア「言い換えの視点」、イ「統合的な言語活動の視点」の二つの視点を参考にリライト教材を含む3種類のワークシートを作成した。

ア 言い換えの視点

現行の学習指導要領では、コミュニケーション英語Ⅰの内容である「イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また聞き手に伝わるように音読する。」に関わって、「概要や要点」の内容及び指導について、「生徒の理解の程度に応じて、聞いた内容を教師が別の表現を用いて言い換えて生徒の理解を手助けしたり、質問をして生徒の理解を確認したりすることも大切である。」と述べられている（文部科学省、2010）。教科書の本文の内容を理解することが重要であるのは明らかであり、リライト教材を作る上でこの視点を重要なポイントとした。

イ 統合的な言語活動の視点

二つ目の視点として、統合的な言語活動の視点を参考にした。中教審答申においては、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の五つの領域ごとに、児童生徒の発達段階に応じて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成する目標を設定し、これらの複数を組み合わせて効果的に活用する統合的な言語活動を一層重視した目標とすると述べている。

本研究では、「読むこと」で得た知識や技能を「書くこと」や「話すこと」に関する活動でも生かせるような統合的な言語活動を取り入れるように工夫した。

(2) 事前アンケート

ア 事前アンケートの実施

生徒の実態を数値で把握するとともに検証の方向性を定めるために、「コミュニケーション英語Ⅰ」を指導している高等学校第1学年の生徒に対して4技能、また英語の授業や学習に関する5件法のアンケートを実施し、当日の欠席者を除いた70名の有効回答を得た。

イ 事前アンケート調査結果の分析

「英語を読むことは得意ですか」等、4技能のそれぞれについて得意かどうかを問う設問で、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した生徒の割合は「読むこと」において78.6%、「聞くこと」は62.9%、「書くこと」は72.9%、「話すこと」は78.6%であり、英語に苦手意識をもって高等学校に入学してきた生徒が各技能で6割～7割を占めるということが分かった。また、「教科書の英語（本文）の内容がわかりますか」という設問において「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した生徒の割合は54.2%と過半数であった。教科書の本文の理解に困難を感じる生徒が多い状況で、教科書の本文を読む前に、教科書の内容を易しく書き換えたリライト教材を用いることにより、生徒に後に読む教科書の概要が理解できたとの自信を与え、教科書の内容理解に取り組みせることができると考えた。また、作成の際は、言語活動を充実させ教科書の理解をもとに4技能を高められるワークシートになるよう工夫した。

3 リライト教材の作成および授業実践

(1) リライト教材の作成（資料参照）

ア 教科書本文のリライトワークシート

授業で使用する教科書のリライト教材の作成は、使用する単語や文法事項が適切であるかどうか本校でティーム・ティーチング授業を実施している外国語指導助手（ALT）と相談しながら行った。リライト教材の作成にあたり留意したのは以下の5点である。

- ① 難易度の高い新出単語は既習単語に書き換える。
 - ② 新出の文法事項は既習のものに書き換える。
 - ③ 重文や複文は単文に書き換え1文の長さを短くする。
 - ④ 前置詞句等それ自体がなくても意味が通じる複雑な要素は省く。
 - ⑤ リライトすることで教科書本文の意味が変わらないようにする。
- また、①～④の例は以下の通りである（表2）。

表2 リライトの例

①	教科書	You can contact people easily.
	リライト	You can talk to people easily.
②	教科書	One of these efforts is planting new forests.
	リライト	For example, we can plant new forests.
③	教科書	They have big strong muscles on their heads because they eat hard bamboo.
	リライト	They eat hard bamboo. So, their head muscles are very big and strong.
④	教科書	Everyone around you could hear your conversation.
	リライト	Everyone could hear your conversation.

リライトワークシートは①One Minute Chat、②リライト英文、③True or Falseの三部構成とした。①のOne Minute Chatは教員が教科書の本文の内容に関連したテーマを提示し、1分間その与えられたテーマについてペアで自由に会話する活動である。佐藤（2015）は「教室内で英語を使用する頻度が低ければ、生徒の不安は高まります。」と述べているので、授業の最初に話す機会を提供することによって、不安感を低下させることを心がけた。この活動においては、英語で話し、相手の発言を聞くため、4技能のうち、「話すこと」と「聞くこと」の技能を高めることが期待される。ワークシートには、会話が円滑に進むように、テーマに関連するキーワードを記載するようにした。更に、リライト英文を読むだけで終わらないよう、②リライト英文の読解後には③のTrue or Falseで内容の理解度を確認で

Lesson 4 The History of the Telephone (part 1)

Speaking
★What do you do with your mobile phone? Talk with your partner in only English ☺
あなたは携帯電話を使ってどんなことをしますか。パートナーと英語だけで話してみましょう！

Reading
★Passage (Rewrite)
Mobile phones are a part of our lives. You can talk to people easily. Maybe you cannot imagine life without your mobile phone. However, these small phones are recent 最近の、新しい
The telephone was made in America in the 1870s. It soon went around the world, and by the 1970s there was one telephone in most homes in Japan. Telephones were on the wall with a cord, so telephones could not move. When a friend called, you had to talk in front ～の面前で of the family. Everyone could hear your conversation. Many young people imagined talking on the phone with no one listening.

★Write T or F

1. The telephone was made in Japan in the 1870s. _____
2. In the 1970s, there was no telephone in most homes in Japan. _____
3. Many young people wanted to talk with the telephone in front of the family. _____

図1 リライトワークシート

きるようにした。

イ 教科書本文読解用ワークシート

教科書本文読解用ワークシートには教科書本文を読み進める上で重要である新出語句のリストを載せ、アクセントと意味を確認し、一通り発音をリピートさせた後にペアで問題を出し合ったり、Criss Cross Game（生徒全員を起立させて、教師が英語で質問をし、質問に答えられた生徒が着席できるゲーム）をしたりして新出語句の定着を図った。また、本文の概要をまとめた英文の空所に英語を記入する課題も掲載し、英文の流れを確認できるようにした。

Lesson 4 The History of the Telephone (Part1)

★New Words ◎

Japanese	English	Japanese	English
移動可能な	mobile	～を発明する	invent
～と連絡をとる	contact	広がる	spread
いつでも	anytime	～まつなぐ	connect
どこでも	anywhere	コード	cord
～を想像する	imagine	会話	conversation
持ち運びできる	portable	～の面前で	in front of
最近	recently	～を夢見る	dream of
私	telephone	こっそりと	in private

★Passage ◎

Mobile phones have become a part of our lives. // You can contact people easily, / anytime and anywhere. // Maybe you cannot imagine life / without your mobile phone. //

However, / these small, portable phones / have appeared only recently. //

The telephone was invented / in America in the 1870s. // It gradually spread around the world, / and by the 1970s / there was one telephone / in most homes in Japan. // It was connected to the wall / by a cord, / so you could not move it. // When a friend called, / you had to talk / in front of the family. // Everyone around you / could hear your conversation. //

Many young people / dreamed of talking on the phone / in private. //

About the relationship between telephone and our lives

• Mobile phones have become a part of our lives.

○ You can contact people easily ① () and ② ().

○ Maybe you cannot imagine life without your mobile phone.

(However) these small, portable phones have appeared ③ () ().

• The telephone was invented in ④ () in the ⑤ ().

⇒ By the ⑥ (), ⑦ (4) _____ in most homes in Japan.

★What was Japan like in the 1970s?

• The telephone was connected to the wall ⑧ (3) _____.

(so) you could not move it.

• You had to talk ⑨ (5) _____.

• Everyone around you could ⑩ (3) _____.

• Many young peoples' dream was talking on the phone ⑪ (2) _____.

図2 教科書本文読解用ワークシート

ウ リライト英文と教科書本文の比較ワークシート

リライト英文は教科書本文を既習の単語や文法事項を用いる等して書き換えたものであり、英文の意味自体は変わらないように留意されている。リライト英文と教科書本文の読解が終わった後、2種類の英文を比較し、英語の表現の多様性に気付かせるためにワークシートを作成した。ある事柄を英語で表現したいとき、その表現方法は一つに限らず複数あるということに気付くことによって、生徒の一つの表現にこだわらず柔軟に考える姿勢を養うことにつながることを期待できる。また、このワークシートにはライティング活動の欄を設け(図3丸囲み部参照)、リライト英文と教科書本文の読解や比較で学んだことを生かせるようにした。この活動においては、「書くこと」の力を高めることが期待できる。

Lesson 4 The History of the Telephone (Part1)

Comparison

①Rewrite: Mobile phones are a part of our lives.
Original: Mobile phones () () a part of our lives.

②Rewrite: You can talk to people easily.
Original: You can () people easily, anytime and anywhere.

③Rewrite: The telephone was made in America in the 1870s.
Original: The telephone was () in America in the 1870s.

④Rewrite: Everyone could hear your conversation.
Original: Everyone () () you could hear your conversation.

Let's think!

★Imagine the world where there are not any phones. How would you be in trouble?
携帯電話のない世の中を想像してみましょう。どんなことで困るでしょうか。

(Write three points ◎ 3点書いてみましょう。)

① I could not _____ with the mobile phone.
② _____
③ _____

Hints ◎
• contact (～と連絡を取る) • online games (オンラインゲーム) • the weather (天気)
• read a map (地図を読む) • movies (動画) • check (～を確認する、調べる)

図3 リライト英文と教科書本文の比較ワークシート

(2) 授業実践

「Revised BIG DIPPER English Communication I」（数研出版）の Lesson 3 (pp.32-39) 及び Lesson 4 (pp.42-49) について、3種類のワークシートを作成し、授業を行った。教科書の各レッスンのパートごとに必ずア、イ、ウの順に授業を行った。

ア 教科書本文のリライトワークシート

生徒の不安を取り除くために授業の最初において①One Minute Chatで話す時間を確保した。予め話す内容を考えさせる時間を設けたが、会話のテンプレートがある訳ではなく自由に話さなければならないため、生徒にとっては難易度が高いようだった。この活動を始めた頃は英語を1分間話し続けるということに戸惑う生徒も多く見られたが、回数を重ねて自分が英語を話すことが相手に伝わっているという



図4 One Minute Chat

ことが分かってくるとワークシートに載っているヒントを参考にしながら一生懸命に話すペアも見られるようになった。また、テーマによっては以前の授業のリライト英文や教科書本文で学習した表現をうまく活用して話す生徒も見受けられた。

本研究のテーマでもある②リライト英文の読解では、教師が英文の難易度に応じて2～3度音読をし、それを聞きながら英文を黙読させた。リライト英文を読む段階では新出語句の導入は行っておらず、生徒は時には推測して予備知識だけで読解を進めていくことになる。そのため、ポイントとなる部分を強調したり、生徒が聞き取りやすいように速さに気を付けたりして工夫して音読した。生徒も内容を理解しようと英文に集中して真剣に取り組んでいた。今回の研究では教科書の五つのパートを3種類のワークシートを用い授業実践したが、生徒たちは時間が経つにつれてリライト英文を「簡単バージョンのプリント」と呼ぶようになり、中には「簡単バージョンなら分かる」と口にする生徒も見受けられた。

イ 教科書本文読解用ワークシート

5月までの研究を始める前の授業では教科書本文読解用ワークシートだけを使用していた。研究が始まってからは教科書本文を読む前にリライト英文を読み、内容がある程度理解できているため、研究前に比べて意欲的に「読む」「聞く」「話す」のそれぞれの活動に取り組む生徒が増えた。

ウ リライト英文と教科書本文の比較ワークシート

パッセージの全ての文を比較するのではなく、リライトすることで表現が大きく変わった文を中心にワークシートに載せた。始めはリライトした英文を見て教科書本文を抜き出して書かせるようにしたが、実践してみると少し難易度が高いように思われたので、語数を指定するように変更した。ライティング活動では「英語を書くこと」に強い苦手意識を感じている生徒が多いことを考慮し、一文全てを書かせるのではなく、リライト英文と教科書本文との比較を通して身に付いた表現が使えるよう穴抜きにする箇所を工夫したり、ヒントを与えたりした。また、生徒が書いた英文に目を通しフィードバックを与えるようにした。実践前は生徒にとって難易度が高く取り組みにくい活動になるかと懸念したが、実際の授業では真剣に考え、何とか英語を書こうと前向きに取り組む生徒が多く見られた。

(3) 授業実践事例

使用教材 Revised BIG DIPPER English Communication I (数研出版)

单元 Lesson 4 The History of the Telephone

I Aims of This Unit

- To have the students understand the content of this lesson and be familiar with the pronunciation and intonation.
- To have the students understand the usage of “present perfect”, “relative pronoun”, and “adjectival usage of participle”.
- To have the students express ideas about what they read.

II Evaluation Criteria of This Unit

A. Interest, willingness and a positive attitude toward communication	B. Ability to express oneself	C. Ability to understand a foreign language	D. Knowledge and understanding of language and culture
①Reading the passage and doing pair work positively	①Pronouncing sentences with the correct stress and intonation ②Expressing ideas about what they read	①Comprehending the meaning of written passages	①Knowing vocabulary, grammar and how to make sentences

III Allotment

First lesson	Introduction of Lesson 4 Reading rewritten passage of Part 1 Learning new words of Part 1 and reading Part 1
Secnd lesson	Comparing rewritten passage with original passage of Part 1 Expressing ideas about what they read
Third lesson	Reading rewritten passage of Part 2 Learning new words of Part 2 and reading Part 2
Fouth lesson	Comparing rewritten passage with original passage of Part 2 Expressing ideas about what they read
Fifth lesson	Reading rewritten passage of Part 3 Learning new words of Part 3 and reading Part 3
Sixh lesson	Comparing rewritten passage with original passage of Part 3 Expressing ideas about what they read
Seventh lesson	Reviewing Lesson 4
Eighth lesson	Reviewing Lesson 4

First lesson

IV Teaching Plan of This Period

(1) Aims of This Period

- To have the students understand the content of Part 1

(2) Evaluation Criteria of This Period

- Reading the passage and doing pair work positively
- Pronouncing sentences with the correct stress and intonation
- Comprehending the meanings of written passages

Time (min.)	Teaching Procedure	Teacher's Activities	Students' Activities	Evaluation Criteria and Methods
8	1. Greeting and introduction	<ul style="list-style-type: none"> • Greet • Have the students listen to teacher's small talk and answer the question • Have the students do one minute chat with a partner 	<ul style="list-style-type: none"> • Greet • Listen to teacher's small talk and answer the question • Do one minute chat with a partner 	A①
7	2. Reading rewritten passage of Part 1	<ul style="list-style-type: none"> • Have the students listen to teacher's reading twice • Have the students answer T or F questions about rewritten passage 	<ul style="list-style-type: none"> • Listen to teacher's reading twice • Answer T or F questions about rewritten passage 	C①
10	3. Checking new words	<ul style="list-style-type: none"> • Have the students fill in the blanks in the word list of Part 1 • Have the students repeat the new words of Part 1 after the teacher • Have the students play a word game in pairs 	<ul style="list-style-type: none"> • Fill in the blanks using the word list of Part 1 • Repeat the new words of Part 1 after the teacher • Play a word game in pairs 	A①, D①
23	4. Comprehending the content of Part 1	<ul style="list-style-type: none"> • Have the students fill in the blanks on the worksheet and check the answers • Explain the content of Part 1 in English briefly 	<ul style="list-style-type: none"> • Fill in the blanks on the worksheet and check the answers • Listen to the teacher's explanation of 	C① Worksheet②

		<ul style="list-style-type: none"> • Read Part 1 twice and have the students check the stress and intonation of the passage of Part 1 • Have the students repeat after the teacher • Have the students practice reading Part 1 	Part 1 <ul style="list-style-type: none"> • Listen to the teacher twice and check the stress and intonation of the passage of Part 1 • Repeat after the teacher • Practice reading Part 1 	A①, B①
2	5. Consolidation	• Reflection on the lesson		

Second lesson

V Teaching Plan of This Period

(1) Aims of This Period

- To have the students understand the content of Part 1

(2) Evaluation Criteria of This Period

- Doing pair work positively
- Pronouncing sentences with the correct stress and intonation
- Expressing ideas about what they read
- Comprehending the meaning of written passages

Time (min.)	Teaching Procedure	Teacher's Activities	Students' Activities	Evaluation Criteria and Methods
10	1. Greeting and review	<ul style="list-style-type: none"> • Greet • Have the students practice reading Part 1 loudly 	<ul style="list-style-type: none"> • Greet • Practice reading Part 1 loudly 	A①, B①
18	2. Comparing the expressions	• Have the students fill in the blanks on the worksheet, compare the expressions between rewritten passage and original one and check the answers	• Fill in the blanks on the worksheet, compare the expressions between rewritten passage and original one and check the answers	
20	3. Output	• Explain how to do	• Listen to	B②

	activities	writing activity	teacher's explanation	Worksheet③
		<ul style="list-style-type: none"> • Have the students write their ideas related to the contents of Part 1 • Have several students share what they wrote 	<ul style="list-style-type: none"> • Write their ideas related to the contents of Part 1 	
2	4.Consolidation	• Reflection on the lesson		

4 授業実践を終えて

(1) アンケート調査結果の分析

事前アンケート調査と同様に授業実践後にアンケート調査を実施し、当日の欠席者を除いた68名の回答を得た。各質問項目について統計処理を行うためにそれぞれの回答について得点化を行った。「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5件法で尋ねた項目について、肯定的な回答から順に5点、4点、3点、2点、1点とした。

「英語を読むことが得意ですか」（以下「読むこと」という。）「英語を聞くことが得意ですか」（以下「聞くこと」という。）「英語を書くことが得意ですか」（以下「書くこと」という。）「英語を話すことが得意ですか」（以下「話すこと」という。）という各設問に対する事前アンケート調査と事後アンケート調査の生徒の回答数の変化を見たところ、全ての設問において、肯定的に回答した生徒が否定的に回答した生徒を上回った（表3～6）。

また、「教科書の英語（本文）の内容がわかりますか」という設問でも、肯定的に回答した生徒が否定的に回答した生徒を上回った。特に、事前アンケート調査において「あまりそう思わない」、もしくは「そう思わない」と回答した生徒（以下「苦手群」という。）の中では、肯定的に回答した生徒が非常に多く見られた。

ア 「読むこと」

「読むこと」においては、事前アンケート調査の時より事後アンケート調査において肯定的に回答をした生徒が21名であった。事前アンケート調査の「読むこと」の設問に対して、「そう思わない」、もしくは「あまりそう思わない」と回答した苦手群の中で、事後アンケート調査において、より肯定的に回答をした生徒は19名であった（表3）。アンケート調査の平均点においても、事前アンケート調査の1.808が2.058に上昇した。これは、

表3 アンケート調査結果「読むこと」

		事 前				
		5	4	3	2	1
事後	5	1	1	1		1
	4	1	3			2
	3		1	1	6	4
	2			1	8	6
	1		1	2	6	22

(人)

■ 下がった領域 ■ 上がった領域

後に述べる「教科書の英語（本文）の内容がわかりますか」という設問のアンケート調査結果（表7）で、肯定的に回答した生徒が否定的に回答した生徒を上回ったことから、リライト教材を含む3種類のワークシートを用いて授業を行ったことで、教科書の英語の理解度が高まり、生徒の「英語を読むこと」に対する意識改善につながったのではないかと推察される。

イ 「聞くこと」

「聞くこと」では、事前アンケート調査より事後アンケート調査において肯定的に回答した生徒（21名）が否定的に回答をした生徒（18名）を上回った（表4）が、平均点においては事前アンケート調査の2.132に対して事後アンケート調査は2.117とあまり変化が見られなかった。しかし、事前アンケート調査の「聞くこと」の設問に対して、「そう思わない」、もしくは「あまりそう思わない」と回答した苦手群の44名のうち、15名が肯定的な回答をして、改善が見られた。これは、教科書本文の音読時に加え、リライト英文を読解する前にも教師の師範読みを聞いたり、One MinuteChatの活動の前に Small Talkを聞いたりと授業内でのリスニング活動が4月当初の授業よりも増え、英語を聞くことに対する抵抗感が少し取り除かれたのではないかと推察される。

ウ 「書くこと」

「書くこと」においては、事前アンケート調査よりも事後アンケート調査において肯定的に回答をした生徒が24名であった。その中で、事前アンケート調査の「書くこと」の設問に、「そう思わない」、もしくは「あまりそう思わない」と回答した苦手群の中で、事前アンケート調査より事後アンケート調査において肯定的に回答をした生徒は20名であった（表5）。アンケート調査の平均点においても、事前アンケート調査の1.941が2.220に上昇した。これは、前述の「リライト英文と教科書本文の比較ワークシート」にライティング活動を取り入れ、生徒が書いた英語に目を通し肯定的なフィードバックを与えるようにしたことが自信につながり、生徒の英語を書くことに対する抵抗感が少し取り除かれたのではないかと推察される。

エ 「話すこと」

「話すこと」においては、事前アンケート調査より事後アンケート調査において肯定的に回答した生徒が35名であった。その中で、事前アンケート調査の「話すこと」の設問に対して、「そう思わない」、もしくは「あまりそう思わない」と回答した苦手群の中で、事後アンケート調査で肯定的に回答した生徒は28名であった（表6）。アンケートの平均点では、事前アンケート調査の1.705が1.852に上昇した。これは、本研究において話すこ

表4 アンケート調査結果「聞くこと」

		事前				
		5	4	3	2	1
事後	5		4	1		2
	4		1	1	2	1
	3		1	8	2	1
	2		1	1	6	7
	1	1		5	9	14

(人)

□ 下がった領域 ■ 上がった領域

表5 アンケート調査結果「書くこと」

		事前				
		5	4	3	2	1
事後	5	2	1	3		1
	4	2				1
	3		1	3	6	6
	2			3	7	6
	1			3	6	18

(人)

□ 下がった領域 ■ 上がった領域

表6 アンケート調査結果「話すこと」

		事前				
		5	4	3	2	1
事後	5	2		2	1	3
	4	2	3	5	2	
	3	1	2	8	4	11
	2			1	2	7
	1			5	3	4

(人)

□ 下がった領域 ■ 上がった領域

とに関わる言語活動としてOne Minute Chatを取り入れたが、始めは1分間英語を話し続けることに戸惑っていた生徒たちが活動に慣れ、1分間話すことに抵抗感が薄れたことにより、英語を話すことへの抵抗感が少し取り除かれたからではないかと推察される。

オ 「教科書の英語（本文）の理解」

「教科書の英語（本文）の内容がわかりますか」という設問においては、事前アンケート調査より事後アンケート調査において肯定的な回答をする生徒が25名であった。事前アンケート調査で、「そう思わない」、もしくは「あまりそう思わない」と回答した苦手群53名のうち23名が以前より肯定的に回答をしている（表7）。アンケート調査の平均点を見ると、全体では事前アンケート調査の2.308から事後アンケート調査の2.911に、苦手群では1.324から2.648にそれぞれ上昇が見られた。これは、リライト教材の平易な英語で読解を行って、本文の概要をつかんでいるため、その後に読む教科書の読解に取り組みやすくなったと感じる生徒が増えたからではないかと推察される。

表7 アンケート調査結果「教科書の英語（本文）がわかりますか」

		事前				
		5	4	3	2	1
事後	5			1		3
	4	1		1		
	3		2	2	3	8
	2	1		1		9
	1	1	3	2	5	25

(人)

□ 下がった領域 ■ 上がった領域

5 今後の課題

本研究では、教科書の内容理解を助け、教科書本文と比較することで英語の表現を学ぶことができるリライト教材を含む3種類のワークシートを作成し、教科書の理解をもとに4技能を高めることを目標に授業を行った。また、生徒の情意面の変化に着目して、アンケート調査の分析を行った。4技能について得意かどうかを問う設問で、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した苦手群では、4技能全てにおいて、事前アンケート調査の時と比べて、事後アンケート調査において肯定的に回答した生徒の数が、否定的に回答した生徒の数を上回り、意識の改善が見られた。4技能全てにおいて意識が改善された理由としては、リライト教材を用いた授業を通して教科書の英語に対する理解度が上昇したことが自信につながり、英語全般に関して苦手意識が少し取り除かれたのではないかと推察される。また、「聞くこと」においてはリスニング活動の量と内容が不十分であるので、更に工夫していく必要がある。

今後はリライト教材をより効果的なものへと発展させていくと同時にペアワークやグループワークの機会を増やし、実際に英語が使えたり通じたりするという実感をもたせ、更に自信をつけさせていきたいと考える。

参考・引用文献

- (1) 文部科学省（平成22年）『高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編』
- (2) 中央教育審議会（平成28年）『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）』 p. 195
- (3) 佐藤臨太郎、笠原究、古賀功（2015）『日本人学習者に合った効果的英語教授法入門』明治図書 pp. 96-100